

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、総合工事業、職別工事業、設備工事業で悪化傾向を弱めました。全体としては-51と12ポイント悪化傾向を弱めました。売上額、収益はともに15ポイント減少傾向を弱めました。受注残は11ポイント減少傾向を弱め、施工高は13ポイント減少傾向を弱めました。価格面では、請負価格は10ポイント下降傾向を弱め、材料価格は20ポイント上昇傾向を弱めました。資金繰りは3ポイント窮屈感が強まりました。残業時間は2ポイント減少傾向が強まりました、人手は2ポイント過剰感が強まりました。設備の状況は若干不足に転じ、設備投資を実施した先は車両を中心に11%と前期比8ポイント減少しました。

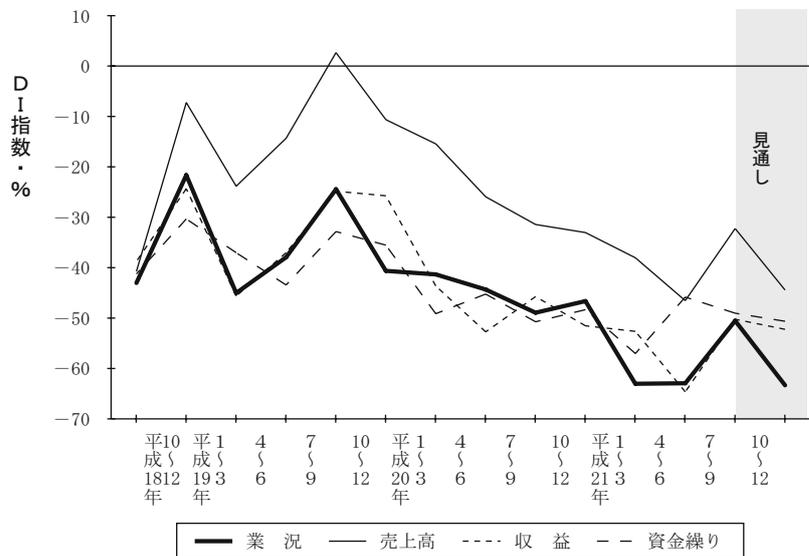
来期の見通し

業況は、総合工事業、職別工事業、設備工事業で悪化傾向を強めるとみえています。全体としては-63と12ポイント悪化傾向を強めそうです。売上額は13ポイント、収益は2ポイント減少傾向を強めるとみえています。受注残は15ポイント、施行高は11ポイント減少傾向を強めるとみえています。価格面では、請負価格は5ポイント下降傾向を強め、材料価格は3ポイント上昇傾向を強めそうです。資金繰りは2ポイント窮屈感が強まりそうです。残業時間は4ポイント減少傾向が弱まり、人手は18ポイント過剰感が強まりそうです。設備の状況は横ばいになるとみえています。設備投資については事務機器などで3%の先が実施予定としていますが、今期より8ポイント減少し投資意欲は減退しそうです。

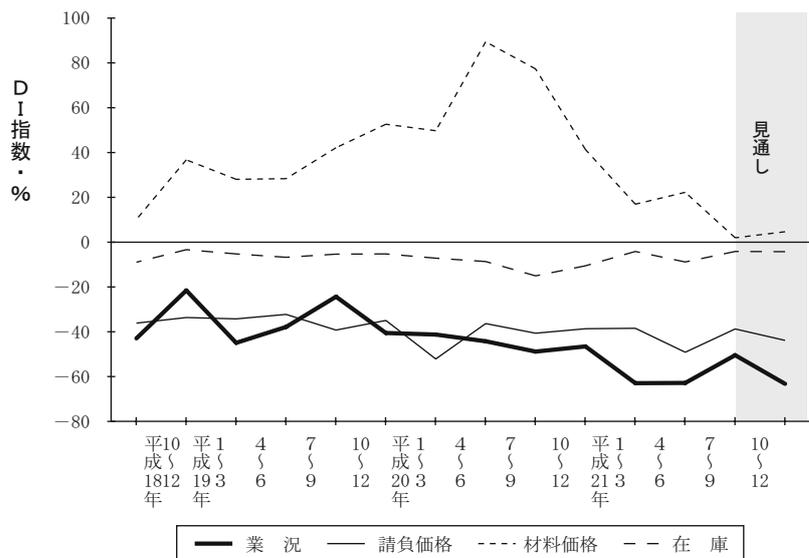
調査員のコメント

- 建築関連企業は、公共事業等減少し、他業種のレンタカー事業を始めた。(総合工事業)
- 売上・収益ともに前年に比べ変化はないが、借入金の検討もしつつ経費節減や技術力・情報力の強化を重点に業況の安定化を図る。(電気・管設備工事業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年7月~9月) / 前期(21年4月~6月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40		
総合工事業	業況																●	○
職別工事業	業況																●	○
設備工事業	業況																●	○

経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少	74%
	2位	同業者間の競争の激化(2)	61%
	3位	利幅の縮小(3)	47%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	66%
	2位	販路を広げる(2)	60%
	3位	情報力を強化する(3)	40%
		技術力を高める(4)	40%

*()は前回順位